



アナンシエータの設定

- [アナンシエータの概要, 1 ページ](#)
- [アナンシエータ設定タスク フロー, 4 ページ](#)

アナンシエータの概要

アナンシエータを使用すると、Cisco Unified Communications Manager は、事前に録音されたアナウンス (.wav ファイル) を再生し、Cisco Unified IP Phone やゲートウェイなどのデバイスにトーンを送信できます。アナウンスは、Cisco Multilevel Precedence and Preemption 用に設定されているデバイスに対して再生されます。

ノードを追加すると、アナンシエータ デバイスがそのノードに自動で追加されます。アナンシエータは、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスが同じノードでアクティブになるまで非アクティブの状態が続きます。



注意

コール処理の負荷が高い Cisco Unified Communications Manager ノードでは、アナンシエータをアクティブにしないことを推奨します。

デフォルトでは、アナンシエータは 48 の同時メディア ストリームをサポートします。アナンシエータ メディア ストリームのデフォルト数は、アナンシエータ サービス パラメータを使用して変更できますが、1つのノードに対して 48 を超えるアナンシエータ ストリームを設定しないことを推奨します。

Cisco Unified Communications Manager サービスが実行されていない専用のサブスクリバ ノードでアナンシエータが実行されている場合、アナンシエータは最大 255 の同時アナウンス ストリームをサポートできます。専用のサブスクリバ ノードが 10,000 ユーザに対応する OVA 仮想マシンの設定を満たしている場合、アナンシエータは最大 400 の同時アナウンス ストリームをサポートできます。

ノードで IPv6 を使用している場合、アナンシエータは IPv4 と IPv6 の両方のオーディオメディア接続をサポートし、自動的にデュアルモードで設定されます。IPv6 を使用していない場合、アナンシエータは IPv4 専用モードとして自動的に設定されます。

Secure Real-Time Protocol (SRTP) が有効になっている Cisco Unified Communications Manager ノードの場合、アナウンサーはセキュアな SRTP デバイスとして自動的に登録されます。状況に応じて、アナウンサーがセキュアモードで稼働している場合は、アナウンスとトーンを暗号化しないことを選択できます。

メディアリソースを管理するために、メディアリソースグループとリストにアナウンサーを追加できます。アナウンサーは、Serviceability のパフォーマンスカウンタもサポートします。たとえば、使用されているストリームの数、現在アクティブなストリーム、使用可能なストリームの総数、失敗したアナウンサーストリームの数をモニタできます。また、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) を使用して、Cisco IP Voice Media Streaming Application のトレースを取得して、アナウンサーのパフォーマンスをトラブルシューティングすることもできます。

メディアストリームのアクティビティとステータスのモニタリングの詳細については、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド』および『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド』を参照してください。

デフォルトのアナウンスとトーン

Cisco Unified Communications Manager は、Cisco IP メディアストリーミングアプリケーションサービスが有効化されたときに、一連の事前に録音されたアナウンサーアナウンスを自動的に提供します。アナウンスまたはトーンは、次の条件で再生されます。

- アナウンス：シスコの Multilevel Precedence and Preemption 用に設定されたデバイスの場合に再生されます。
- 割り込みトーン：参加者がアドホック会議に参加する前に流れます。
- リングバックトーン：コールがアクティブな場合、ゲートウェイはトーンを再生できないため、IOS ゲートウェイ経由で PSTN を介してコールを転送する場合は、アナウンサーがトーンを再生します。
- リングバックトーン：H.323 クラスタ間トランクを介してコールを転送する場合は、トーンが再生されます。
- リングバックトーン：SCCP を実行している電話から SIP クライアントにコールを転送する場合は、トーンが再生されます。

デフォルトの事前に録音されたアナウンサーアナウンスを変更したり、アナウンスを追加したりすることはできません。Cisco Unified Communications Manager ロケールインストーラがインストールされており、Cisco Unified IP Phone またはデバイスプールにロケールが設定されている場合は、アナウンスのローカリゼーションがサポートされます。ロケールインストーラとユーザおよび（対応する）ネットワークロケール用にインストールするファイルの詳細については、『Installing Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。ロケールインストーラをダウンロードするには、www.cisco.com のサポートページを参照してください。

表 1: 事前に録音されたアナンシエータ アナウンス

条件	アナウンス
優先順位が同じか高いコールが処理されます。	優先順位アクセス制限のため、コールを完了できません。 (Precedence access limitation has prevented the completion of your call.) 電話を切り、もう一度かけ直してください。 (Please hang up and try again.) これは録音です。(This is a recording.)
優先順位アクセス制限が存在します。(A precedence access limitation exists.)	優先順位アクセス制限のため、コールを完了できません。 (Precedence access limitation has prevented the completion of your call.) 電話を切り、もう一度かけ直してください。 (Please hang up and try again.) これは録音です。(This is a recording.)
誰かが許可されていない優先順位レベルを試行しました。(Someone attempted an unauthorized precedence level.)	使用した優先順位は、回線で許可されていません。(The precedence used is not authorized for your line.) 許可された優先順位を使用するか、オペレータにお問い合わせください。 (Please use an authorized precedence or ask your operator for assistance.) これは録音です。(This is a recording.)
コールが話中であるか、管理者がコール ウェイティングまたはプリエンプションの電話番号を設定していません。(The call appears busy, or the administrator did not configure the directory number for call waiting or preemption.)	ダイヤルした番号は通話中で、コール待機またはプリエンプションに対応していません。(The number you have dialed is busy and not equipped for call waiting or preemption.) 電話を切り、もう一度かけ直してください。(Please hang up and try again.) これは録音です。(This is a recording.)
システムがコールを完了できません。(The system cannot complete the call.)	ダイヤルしたコールを完了できません。(Your call cannot be completed as dialed.) ディレクトリを調べてかけ直すか、オペレータに連絡してください。(Please consult your directory and call again or ask your operator for assistance.) これは録音です。(This is a recording.)
サービスに割り込みが発生しました。(A service interruption occurred.)	サービスが中断されたため、コールを完了できません。(A service disruption has prevented the completion of your call.) 緊急の場合は、オペレータに電話してください。(In case of emergency call your operator.) これは録音です。(This is a recording.)

次の表に、アナンシエータでサポートされるトーンを示します。

表 2: トーンの説明

タイプ	説明
話中音	話中音は、着信番号が話中の場合に聞こえます。
割り込みトーン	会議割り込みトーンは、参加者がアドホック会議に参加する前に聞こえます。
リングバックトーン	アラート トーンは、次のシナリオの場合に聞こえます。 <ul style="list-style-type: none"> • IOS ゲートウェイ経由で PSTN を介してコールを転送する場合。 • H.323 クラスタ間トランクを介してコールを転送する場合。 • SCCP 電話から SIP クライアントにコールを転送する場合。

会議ブリッジでのアナンシエータの使用

次の条件を満たす場合に、アナンシエータを会議ブリッジで使用できます。

- アナンシエータを含むメディア リソース グループ リストが、会議ブリッジが存在するデバイス プールに割り当てられている場合。
- アナンシエータがデフォルト メディア リソースとして設定されている場合。

メディア リソース グループ リストが会議を制御するデバイスに直接割り当てられている場合は、会議ブリッジでアナンシエータを使用できません。

電話会議ごとに 1 つのアナウンスのみがサポートされます。現在のアナウンスの再生中に、システムが別のアナウンスを要求した場合は、新しいアナウンスによって再生中のアナウンスがプリエンプション処理されます。

関連トピック

[メディア リソース グループの概要](#)

アナンシエータ設定タスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	アナンシエータのアクティブ化 , (6 ページ)	アナンシエータをアクティブ化するノードで、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスをアクティブ化します。クラスタの各アナンシエータ デバイスで、

	コマンドまたはアクション	目的
		Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスを 1 つだけアクティブ化します。
ステップ 2	メディアリソースグループのタスクフロー	Cisco Unified Communications Manager の管理を使用して、アナンシエータをメディアリソースグループおよびリストに追加し、メディアリソースを管理します。 [依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウで、どのメディアリソースグループにアナンシエータがあるかを確認できます。
ステップ 3	基本的なデバイスプールの設定	Cisco Unified Communications Manager の管理を使用して、アナンシエータを含むメディアリソースグループをデバイスプールに追加します。各アナンシエータに対して、この手順を繰り返します。各アナンシエータは、デバイスプールに含まれる必要があります。
ステップ 4	メディアストリームのデフォルトの番号の変更、(6 ページ)	(任意) アナンシエータ向けメディアストリームのデフォルト番号は変更可能です。
ステップ 5	アナンシエータのセキュリティモードを上書き、(7 ページ)	(任意) Cisco Unified Communications Manager がセキュアに展開されている場合、アナンシエータとセキュリティが有効なデバイスとの間のメディアストリーミングは Secure Real-Time Protocol (SRTP) で自動的に暗号化されます。アナンシエータのセキュリティ設定を上書きし、セキュアなアナンシエータから配信されたストリームメディアが暗号化されないようにすることができます。
ステップ 6	アナンシエータがあるメディアリソースグループリストを表示、(8 ページ)	(任意) どのメディアリソースグループがアナンシエータデバイスを使用するかを確認できます。
ステップ 7	会議ブリッジのアナンシエータの設定、(9 ページ)	(任意) アナンシエータと会議ブリッジが同じデバイスプールに属している時は、会議ブリッジでアナンシエータを使用できます。

アナンシエータのアクティブ化

クラスタ内の各アナンシエータ デバイスで、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスを1つだけアクティブにします。



注意

コール処理負荷が高い Cisco Unified Communications Manage ノードでは、アナンシエータをアクティブにしないことをお勧めします。

手順

- ステップ 1 Serviceability GUI から、[ツール (Tools)] > [アクティブ化 (Activation)] を選択します。[サービスのアクティブ化 (Service Activation)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] フィールドのノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 3 [Cisco IP Voice Media Streaming Application] をオンにし、[保存 (Save)] をクリックします。

次の作業

メディア リソース グループの設定およびデバイス プールへの割り当てをまだ行っていない場合、[メディア リソースの設定](#)に進みます。

それ以外の場合は、[メディア ストリームのデフォルトの番号の変更](#)、(6 ページ) に進みます。

メディア ストリームのデフォルトの番号の変更

デフォルトでは、アナンシエータは 48 のメディア ストリームを同時にサポートするように設定されています。デフォルトのメディア ストリーム数は、アナンシエータのサービスパラメータを使用して変更できます。ただし、ノードのアナンシエータ ストリームは 48 以下にすることを推奨します。

はじめる前に

[アナンシエータのアクティブ化](#)、(6 ページ)

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ 2** [サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、サーバを選択し、Cisco IP Voice Media Streaming Application という名前のサービスを選択します。
- ステップ 3** [サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウの [アナンシエータ (ANN) パラメータ] セクションの [コールカウント (Call Count)] フィールドに、多重同時メディアストリーム数を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
- アナンシエータを更新した場合、変更内容は、アナンシエータがアイドル状態になり、アクティブなアナウンスが再生されていないときに自動的に変更されます。
-

次の作業

[アナンシエータのセキュリティ モードを上書き, \(7 ページ\)](#)

アナンシエータのセキュリティ モードを上書き

Cluster セキュリティモードと呼ばれるエンタープライズパラメータが 1 (混合モード) に設定されると、アナになります。アナンシエータは、Secure Real-Time Protocol (SRTP) を有効にした Cisco Unified Communications Manager で、セキュアな SRTP デバイスとして登録されます。ロックされたアイコンは、SRTP 対応デバイスに表示されます。セキュアなアナンシエータからのアナウンスは、受信側デバイスも SRTP 対応であれば暗号化されます。SRTP 対応ではない場合は、保護されていないアナウンスとトーンが送信されます。

Make Annunciator Non-secure when Cluster Security is Mixed (クラスタのセキュリティが混在している場合はアナンシエータを非セキュアに設定) というサービスパラメータを使用して、アナンシエータのセキュリティモードをオーバーライドできます。アナンシエータのセキュリティモードが上書きされると、受信側デバイスで SRTP が有効でも暗号化されていないアナウンスが再生されます。

はじめる前に

[メディアストリームのデフォルトの番号の変更, \(6 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] フィールドのノードを選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] フィールドの [シスコ統合 IP ボイス メディア ストリーミング アプリケーション (Cisco Unified IP Voice Media Streaming Application)] を選択します。
- ステップ 4** [クラスタのセキュリティが混在している場合はアナンシエータを非セキュアに設定 (Make Annunciator Non-secure when Cluster Security is Mixed)] を「True」に設定して、[保存 (Save)] をクリックします。
- ヒント** [クラスタのセキュリティが混在している場合はアナンシエータを非セキュアに設定 (Make Annunciator Non-secure when Cluster Security is Mixed)] パラメータが表示されていないときは、[詳細機能 (Advanced)] をクリックします。
-

次の作業

[アナンシエータがあるメディア リソース グループ リストを表示, \(8 ページ\)](#)

アナンシエータがあるメディア リソース グループ リストを表示

どのメディア リソース グループがアナンシエータ デバイスを使用するかを確認するには、[依存レコード サマリー (Dependency Records Summary)] ウィンドウを表示します。

はじめる前に

[アナンシエータのセキュリティ モードを上書き, \(7 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で [メディア リソース (Media Resources)] > [アナンシエータ (Annunciator)] を選択します。
- ステップ 2** システム用に設定されているアナンシエータを選択します。
- ステップ 3** [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リスト ボックスで、[依存レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
[依存レコード サマリー (Dependency Records Summary)] ウィンドウは、アナンシエータ デバイスを使用するメディア リソース グループを表示します。
-

次の作業

[会議ブリッジのアナンシエータの設定, \(9 ページ\)](#)

会議ブリッジのアナンシエータの設定

会議ブリッジでアナンシエータを使用できます。

はじめる前に

[アナンシエータがあるメディア リソース グループ リストを表示](#), (8 ページ)

手順

-
- ステップ 1** メディア リソース グループ リストにアナンシエータを追加します。
- ステップ 2** クラスタ内の全デバイスでアナンシエータを使用できるようにするには、アナンシエータを含むメディア リソース グループ リストを会議ブリッジのデバイス プールに割り当てます。
-

関連トピック

- [メディア リソース グループの概要](#)
- [メディア リソース グループのタスク フロー](#)
- [Device Pools](#)
- [基本的なデバイス プールの設定](#)

